

学会参加報告

がん研究会 がん化学療法センター 分子生物治療研究部
明治薬科大学大学院 薬学研究科 修士2年
木下 量子

7月5日～8日の間、韓国にて開催された「日独韓がん老化合同シンポジウム」に参加してまいりました。私にとって初めての学会であり海外に行くのも初めてでしたので、シンポジウム開催日が迫るにつれ、不安や緊張が増していきました。同時に、国際学会で発表する機会を頂いたことを大変うれしく思い、準備や発表練習にも気合が入りました。パスポートを新規で申請しその写真に違和感を感じながらも、出発の日を心待ちにしていました。

羽田空港に向かう途中の電車でも、期待や不安など様々な感情で落ち着きがなかったように思います。空港の出発ロビーで待っている時に、シンポジウムに参加する方たちと合流し、一気に緊張が高まりました。金浦空港から開催場所のホテルまではいくつかルートがあり、各々がホテルに向き合いました。私たちは、金浦空港から蔚山空港まで飛行機で向かう予定でしたが、天候不良のため搭乗予定の便がキャンセルになるというアクセデントがありました。この時期韓国では、気温は東京と変わりないようですが、降水量が多く学会中も連日雨天となりました。

ホテルに到着し、一息つく間もなくシンポジウム開催場所に向かいました。会場の独特の雰囲気によって圧倒されてしまいました。1日目が無事に終わりホテルの部屋に戻る頃には、疲れが一気にでましたが、2日目のポスターセッションに向けて黙々と発表練習しました。ポスターセッションでは同世代の方が多く発表しており、研究内容は勿論ポスターの作り方やプレゼンする方法など、多くの刺激を受けました。



私の演題名は「Screening of chemical compounds that target prostate cancer stem like-cells」で、前立腺がん幹細胞を標的とする薬剤をスクリーニングし、ヒット化合物についてメカニズムを解析した結果を報告しました。多くの方がポスターを見に来て下さいました。がん幹細胞マーカーに関することや、ヒット化合物のメカニズム、動物実験の予定はあるか、など多くの質問をしていただきました。私の未熟な英会話で必死に伝えようとし、なんとか理解して頂けました。それでも、上手く伝えられなかったり、質問の意図を誤って解釈してしまい意思疎通ができなかったりと、悔しい思いもしました。

今回のシンポジウムに参加し、同世代が研究に真剣に取り組む姿を見て、「私も負けていけない」と奮起しました。また、十分な意思疎通ができなくて悔しい思いをしたことをバネに英語をもっと勉強しようと思いました。このシンポジウムの話を聞いた時は、不安が大きく参加を躊躇いました。しかし、海外で発表できる貴重な機会を大事にしたいと、思い切って参加することにしました。怖いもの知らず、だったかもしれません。思い切って踏み出すことで、殻を破れたような気がします。